

テレワーカー（リモートワーカー）アンケート調査結果

都市住宅学会中部支部・郊外住宅地部会
可児市・団地交流懇談会（海道清信、河崎典夫、滝佳子）

2021年11月20日

■ 調査のねらい

住宅団地のこれからのあり方を考える上で、高齢化や人口減少などの課題への対応とは異なる視点で、いろいろ検討すべきテーマが見られるだろう。その一つがコロナ禍による働き方の変化である。リモートワークという働き方が、政府からの要請もあり、多くの企業で普及してきた。多くの場合、リモートワークは自宅で行われている。これまでは、普通のサラリーマンでは自宅は家族との団らん、休息などの場で、働く場所ではなかった。これまでとは異なる働き方によって、人々の生活にはどのような影響が見られるようになったか、また、在宅時間が増えたことによって、住宅や団地環境に対してこれまでとは異なったニーズや、あるいは困ったことがあると思われる。こうした点を把握することが本調査の目的である。郊外団地のこれからのあり方を考えることを目的としているが、リモートワークの実態を把握するために、団地居住者でない方も対象としている。

なお、本調査の対象者はリモートワークをしている、したことがある方を対象としている。インターネット・アンケート調査のように、対象者を把握することが困難なため、今回の調査ではリモートワークをしている方で、協力いただける方を探して、A4表裏のアンケート用紙に記載していただく方法を採用した。

■ 調査実施者

アンケート用紙の配布・回収：河崎典夫（桂ヶ丘）、滝佳子（愛岐ヶ丘）
アンケート集計・解析：海道清信

■ 調査時期

2021年7月～8月

■ アンケート方法

リモートワークをしている方に直接依頼、配布回収

■ アンケート対象者

調査実施者の個人的なツテでリモートワークを行っている方。対象は可児市内住宅団地（桂ヶ丘団地、桜ヶ丘団地、愛岐ヶ丘団地など）、市外

■ 回収数 25

可児市内団地居住者 17、市内団地以外 1、市外 7

● アンケート結果 ●

1 回答者の個人属性

<1> 回答者の居住地

桜ヶ丘	皐ヶ丘	桂ヶ丘	愛岐ヶ丘	その他市 内団地	団地外可 児市内	市外	小計
3	0	10	4	1	0	7	25
12%	0%	40%	16%	4%	0%	28%	100%

可見市内他団地：松伏

市外：西尾市1、一宮市3、東京都2、大阪1

<2> 年齢

20代	30代	40代	50代	60代以上	小計
2	1	14	5	3	25
8%	4%	56%	20%	12%	100%

<3> 性別

男性	女性	小計
19	6	25
76%	24%	100%

<4> 家族人数

1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	小計
1	3	7	10	3	1	25
4%	12%	28%	40%	12%	4%	100%

<5> 家族構成

単身	夫婦のみ	親と子ども	3世代	小計	夫婦+1とし、「ペットも家族です」とコメントされた回答あった。
1	3	17	3	24	
4%	13%	71%	13%	100%	

<6> 職業

営業	事務・オフィ スワーカー	販売	飲食サー ビス	警備清掃	イベントレ ジャー	教育カル チャー	理容美容
5	4	0	0	0	0	0	0
20%	16%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
医療介護 福祉	ドライバー 配達	製造倉庫	IT/エンジ ニア	クリエイテ ィブ出版	専門職	土木・建 築	その他
1	0	3	6	0	1	1	4
4%	0%	12%	24%	0%	4%	4%	16%

その他：商品企画、フリーランス・空間デザイナー、法人管理職、放送・通信事業

2. リモートワークの状況

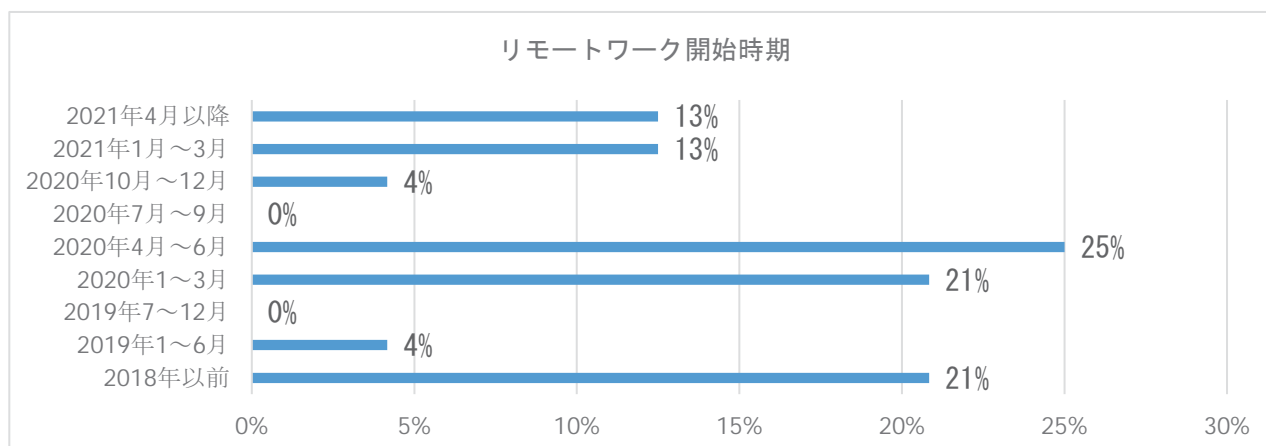


(出典：NHK ホームページ、2021/11/16 参照)

緊急事態宣言(1)	2020年4月7日～5月25日～5月31日	当初1都3県、大阪、兵庫 4/16 全国に拡大、5/4 期間延長
緊急事態宣言(2)	2021年1月7日～3月7日～3月21日	当初1都3県、区域拡大
緊急事態宣言(3)	2021年4月25日～5月31日～(地域によって追加・延長)～9月30日	当初東京、京都、大阪、兵庫、あとまん延防止等措置含め区域拡大

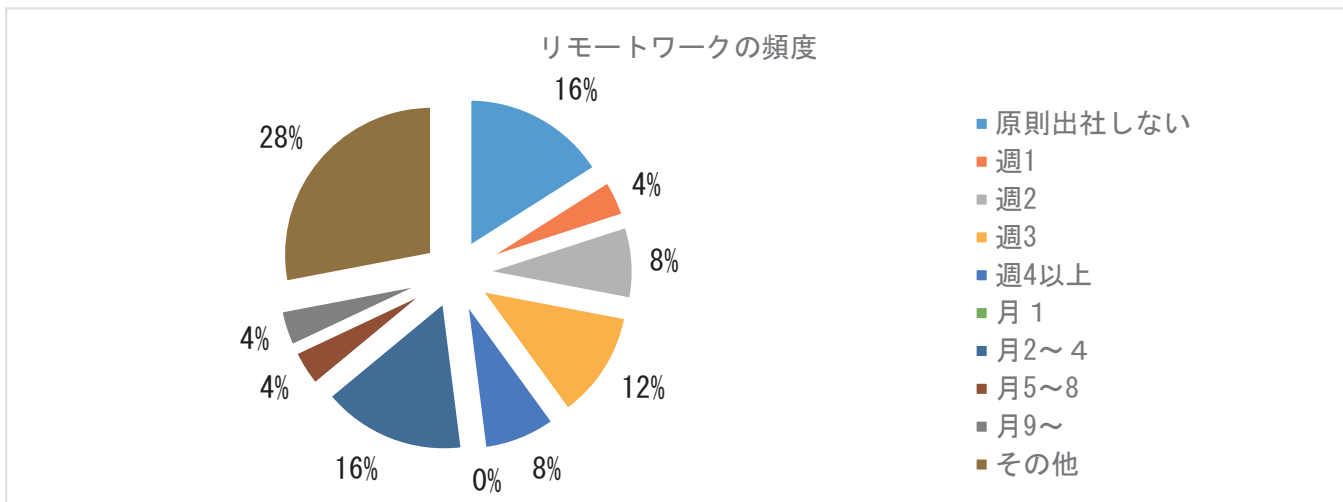
<リモートワークの開始時期>

初めての新型コロナの感染者は2020年1月15日。最初の緊急事態宣言がされたのは2020年4月～5月末。リモートワークの開始時期は、最初の緊急事態宣言の出される前が、46%と約半分。2018年以前も21%で、コロナ禍以前からリモートワークがされている。2021年、今年になってから始めた方も26%。現在、リモートワークを継続中の方は、24名中20名、1名は未回答。



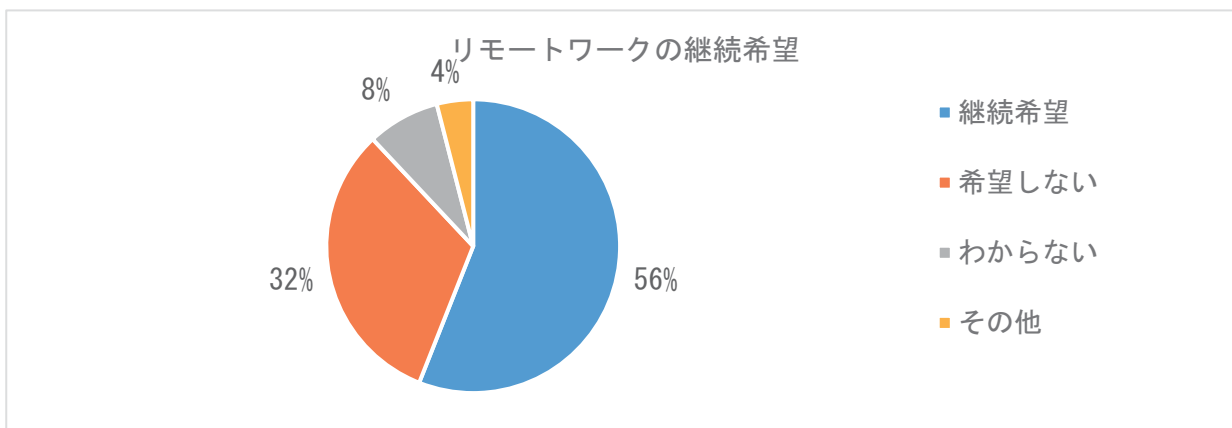
<リモートワークの頻度>

その他：週2～3日＝2、年に2回＝1、緊急事態宣言時＝1、何か宣言中及び随時＝1、随時、必要に応じて＝1、現在まで2回、仕事の関係で難しい＝1



<リモートワークの継続希望>

過半数がリモートワークの継続を希望している。

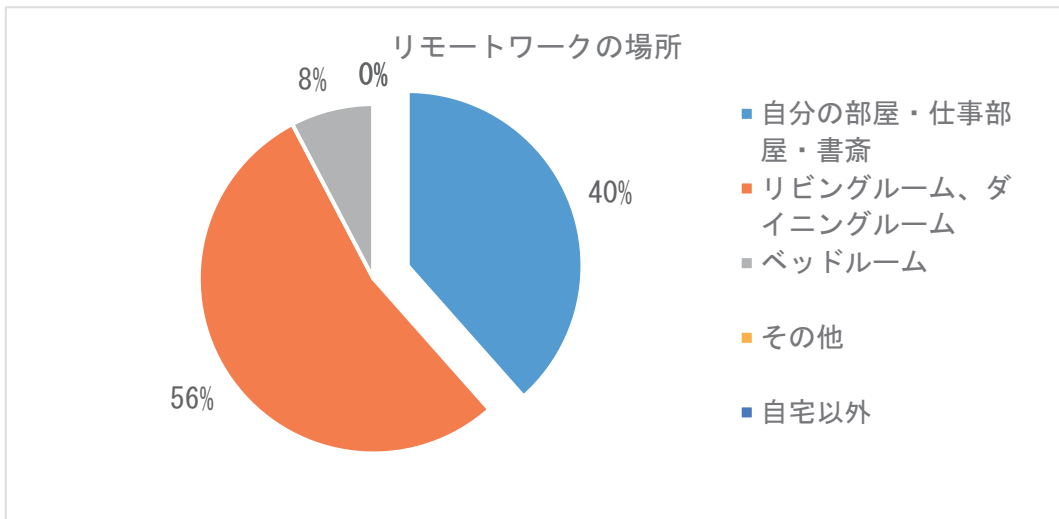


リモートワーク継続希望「その他」:

- ・フリーランスですので出社はなし。対面での打ち合わせをするのが良い

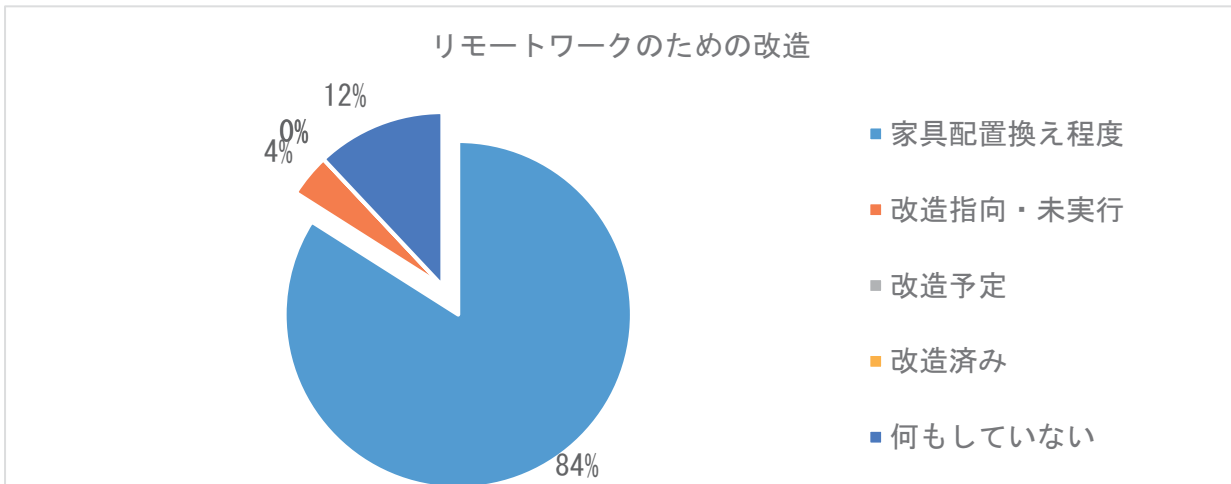
<リモートワークの場所>

自宅の中では、リビングルームやダイニングルームが多く、次いで自分の部屋や書斎が多い、一部は、ベッドルームでしている。



<リモートワークのための自宅の改造>

リモートワークのために自宅を改造した人はいない。家具の配置を換えたりしている程度で対応している。

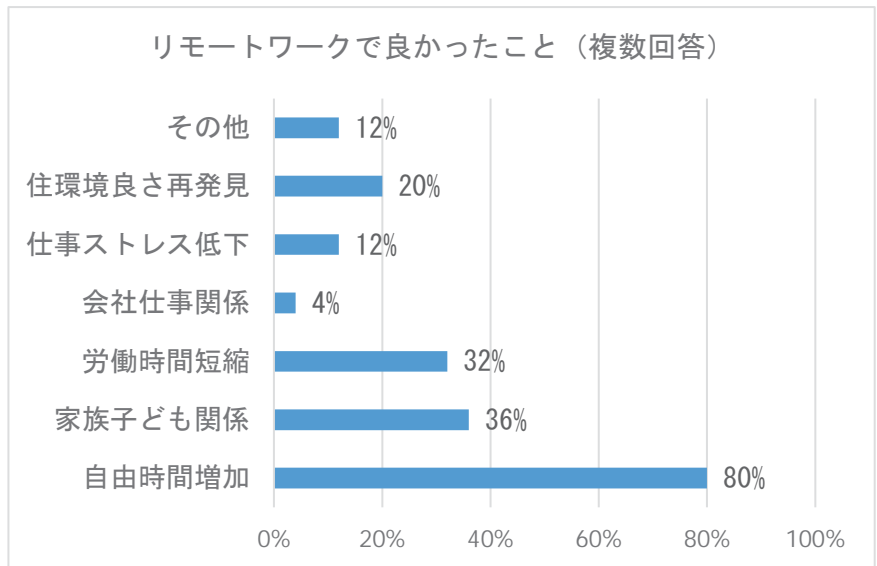
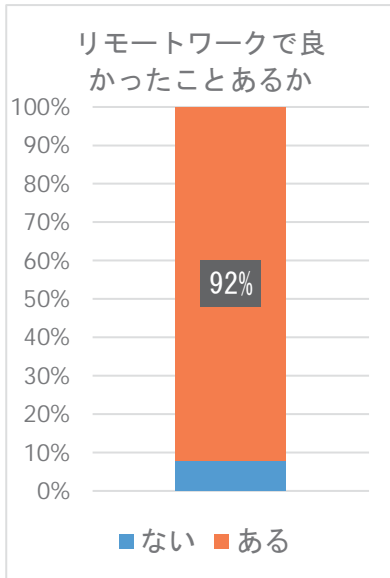


2 リモートワークのメリット、デメリット

<リモートワークをして良かったこと>

ほとんどの方 92%はリモートワーク良かったことがあると回答している。

最も良かったことでは、通勤時間が不要になったことと関連して、自由時間の増大 80%が指摘されている。次いで、家族や子どもとの関係 36%、労働時間の短縮 32%があげられている。リモートワークをしていえや地域での滞在時間が増えたことと関連して、住環境の良さを再発見した人も 20%いる。



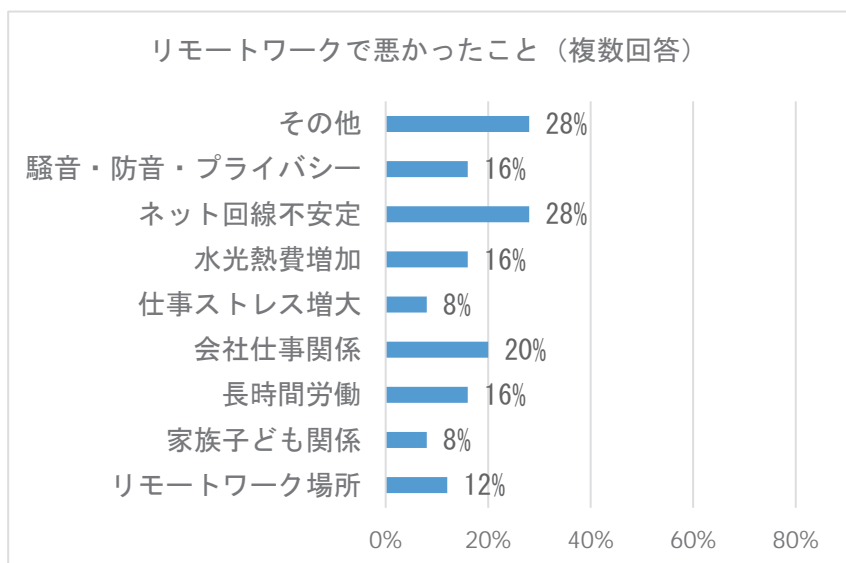
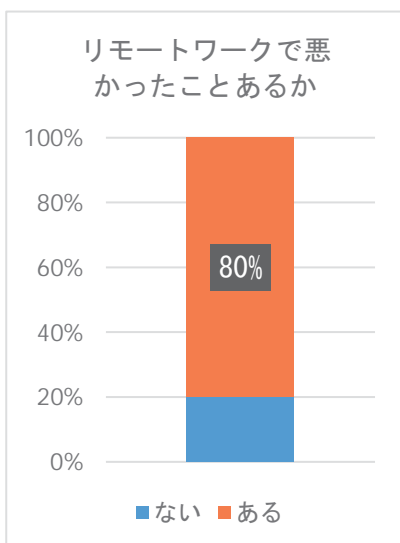
「良かったこと」その他：

- ・休憩時間が取りやすく、自由にアレンジできること
- ・万が一自分が感染してしまったときに感染拡大を防ぐことができる
- ・労働時間選択の裁量拡大、途中で家事も

<リモートワークで悪かったこと、困ったこと>

リモートワークで困ったことも、80%があると答えている。

具体的には、ネット回線の不安定が最も多い28%。住まいや家族との関係では、騒音・防音・プライバシー16%、リモートワーク場所12%、家族や子どもとの関係8%。自宅での生活が長くなったため、水光熱費の増大をあげている人もいる16%。

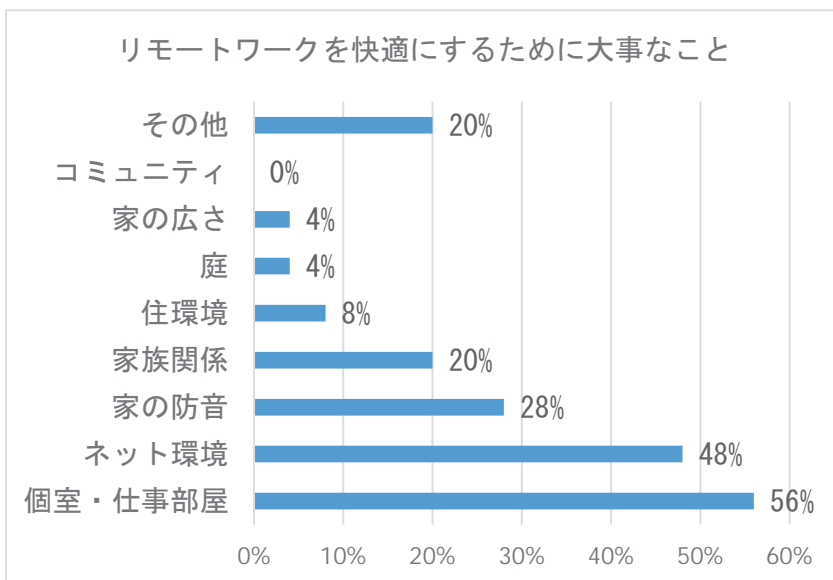


「悪かったこと。こまったこと」その他：

- ・動かない, 歩かないので継続すると身体がだるい
- ・チームのコミュニケーション低下
- ・直接作業ができない (設備点検業務など)
- ・昼食
- ・仕事の効率の低下、目の疲れ
- ・コミュニケーションの取りづらさ、運度不足
- ・仕事とプライベートとの切り替え

<リモートワークを快適にするために大事なこと>

リモートワークを快適にするために大事なこととしては、住宅の中で部屋の確保が最も多く 56%、家の防音 28%等があげられている。ネット環境の改善も 48%と半数の方が指摘している。その他の具体的な条件としては、PC や椅子、机といった作業環境に関する改善要望・期待があげられている。

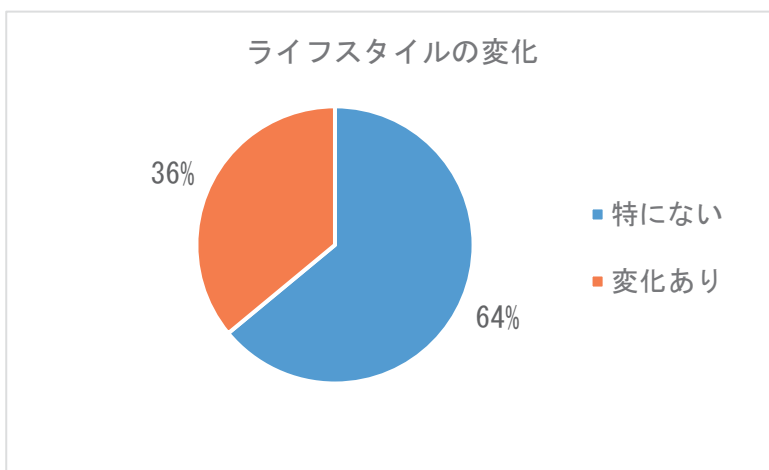


「快適なリモートワークのために」その他：

- ・椅子。会社では腰痛防止のための椅子を使用
- ・ワークデスク、チェア、ハイスペック PC
- ・PC モニターの購入
- ・ネット上のセキュアな作業スペースと社内情報へのアクセスができる職場側の環境整備
- ・部屋の掃除、整理整頓

<リモートワークによってライフスタイルに変化は>

リモートワークのまだ、それほど長くないためもあって、ライフスタイルの変化は3分の2は特に変化がないと答えている。一方で、具体的な変化として記述されているいろいろな事例は、ほとんどが好ましい変化を挙げている。

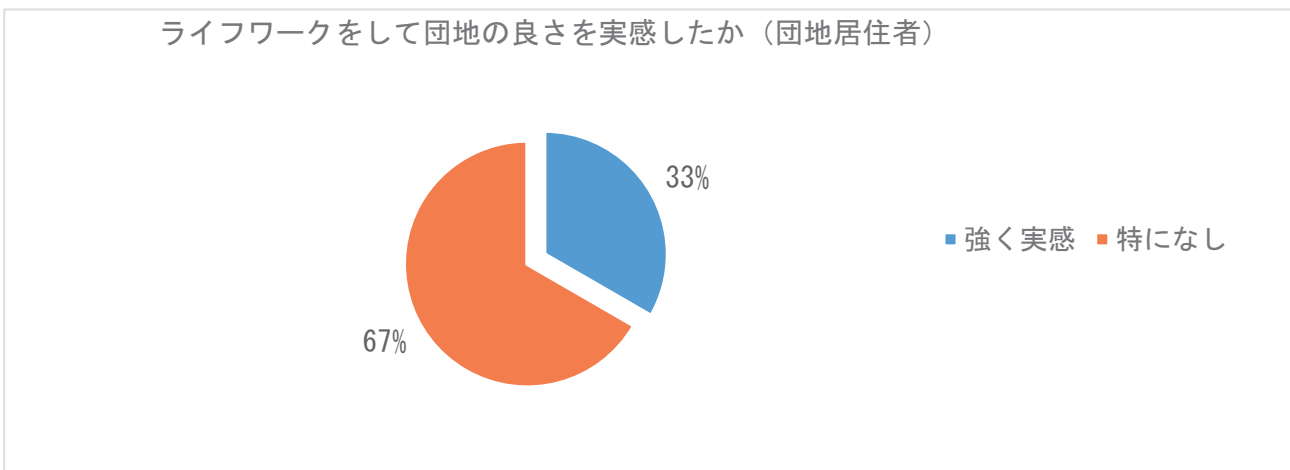


ライフスタイルの具体的な変化：

- ・地域の活動にも参加するようになったこと
- ・家族とのコミュニケーションが増えた。家にいる時間が増えたので、散歩など周辺環境をより知るようになった。

- ・家族との時間が増えた
- ・夕方の犬の散歩が可能になった
- ・夫は週末の庭いじりがストレス解消になっている、庭で家族そろって食事することが増えた
- ・宅配を積極的に使うようになった。オフィス利用と自宅利用のメリットをうまく使い分けて仕事をす
るようになった
- ・単身赴任先での生活が、実家の生活に戻った
- ・子育てをしながら仕事をするようになった
- ・時間調整がしやすくなった

<リモートワークで郊外団地の良さを実感したか>



リモートワークで団地の良さを実感するようになった方も3分の1いる。

団地・戸建て住宅の良さとして、家の広さや静かさ、緑などを改めて実感した人もいる。また、郊外に住んでいない人でも、リモートワークで通勤時間がなくなれば郊外でも暮らせるという評価担った方もいる。

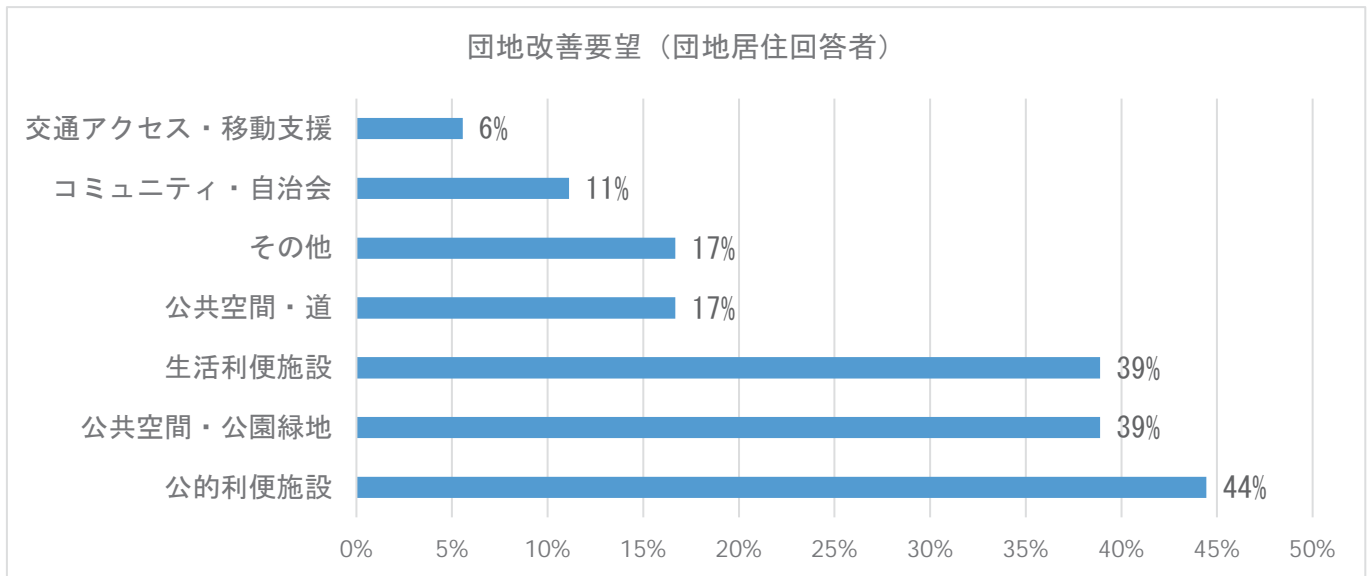
団地の良さの実感の具体的な記述：

- ・安全安心
- ・自然豊かな環境が気持ちよい。
- ・基本的に静かである
- ・家の広さを活かして、仕事のための空間づくりや、仕事とプライベート（家族）との切り分けがしやすい
- ・駐車場が近いので昼休みに遠くまで移動できる
- ・（団地外居住の人）郊外団地にないのでわからないが、郊外団地でも仕事上支障はなさそう

<リモートワークに関連した団地改善希望>

リモートワークに関連した団地の改善希望としては、集会所などの公的利便施設、公園・緑地、生活利便施設の改善機体が多い。具体的な記述からみると、気分転換や運動不足解消のために、公園緑地や散歩道などの整備が望まれている。公的利便施設としては、家から少し離れたところで作業でネット環境

も整ったシェアスペースへの要望があげられている。生活利便施設としては、やはり気分転換の場としてのカフェや買い物場への要望があげられている。

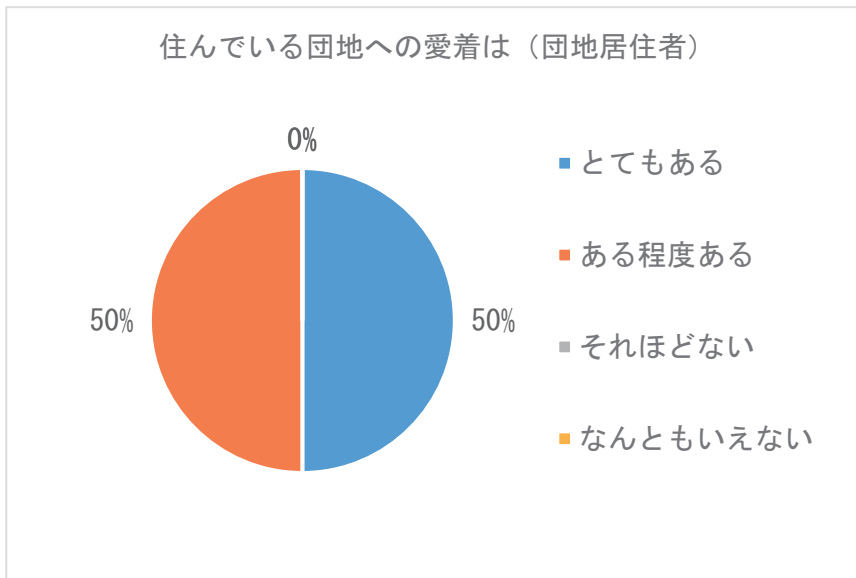


具体的な要望：

公共空間・道	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量は少なめ ・交通量が多く、会議中は窓を開けられない ・サイクリングロードを作ってほしい
公共空間・公園緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても運動不足になるため、整備された安全な散歩コースがあると良い ・どうしても運動不足になるため、整備された安全な散歩コースがあると良い ・気分転換の場 ・外出が少なくなったので、早朝にウォーキングするのが楽しみの一つになった ・大人が気分転換できる場所があれば良い
交通アクセス・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドバス
公的利便施設	<ul style="list-style-type: none"> ・高速ネットワークと PC 環境 ・個室がない人へのスペース提供ができないか ・自宅に書斎がない人のために、リモートワーク用のレンタルスペースのような施設があると良い ・自宅に書斎がない人のために、リモートワーク用のレンタルスペースのような施設があると良い ・オンライン会議などがスムーズにできるネット環境の改善、大型モニターの設置など会議室の整備、等 ・オンライン会議などがスムーズにできるネット環境の改善、大型モニターの設置など会議室の整備、等 ・ワーキングスペースのレンタル
生活利便施設	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売 ・ネットカフェがほしい ・気分転換に使えるカフェ ・歩いて買い物ができると運動不足解消になる ・近くの飲食店が増えると良い ・通勤途上での買い物がなくなるので、近くにあると便利。ネットでも購入できるが、すぐにほしいときには難しいため
コミュニティ・自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供媒体からネットに（伝達スピードの改善）
その他（リモートワーク関連）	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に困ることがあるのでデリバリーサービスの充実 ・飛行機騒音に困ることがある ・カフェ併設のサードスペース
その他（団地全般）	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、少子高齢化による学校や高齢化による空き家を活用。学校集会所等－在宅スペース提供、インフラ整備、空き家－シェアハウス等 ・公園などに無料 WIFI が整いかつベンチやテーブルなど仕事もできるスペースが備われば魅力的。 ・緑豊かな場所で、外で仕事ができるのは先進的かと思う。 ・外周道路の速度制限徹底

<団地への愛着>

団地への愛着はとてもある、ある程度ある、が半々である。



<まとめ>

1. リモートワークの開始時期は、新型コロナによる、最初の緊急事態宣言(2020年4月)前からが約半分。つまり、コロナによって急速に取り入れられるようになったが、それ以前からも取り組まれていた。

2. リモートワークを経験して、今後も継続してほしいという回答が、希望しない方よりも多い。

3. 自宅でのリモートワークの場所は自分の部屋が40%だが、リビングルームやダイニングルームが半数以上。この場所は家族が使う共用の部屋のため、他の家族が使う場面では干渉し合うことも想定される。利用にあたっては、家を改造しているか方はおられず、家具の配置変更などで対応している。

3. リモートワークによって、メリットとデメリットの両方を感じている方がほとんどだが、最もメリットを感じているのは通勤期間がなくなり自由時間が増大したこと。通勤、労働時間を自分の裁量で使えるようになったことに、メリットを感じている。家族や子どもの関係でデメリットを感じている方もいるが、メリットを感じている方が多い。

4. 今後、リモートワークを快適にするためには、一番の希望は個室や仕事部屋を確保したいという点。次いでネット環境や防音など、住宅に係わる改善希望が多い。

5. リモートワークで、地域活動に参加するようになったり、家族とのコミュニケーションが増えたり、近所を散歩したりして地域のことに関心を持つようになった方もみられる。団地の良さを改めて実感した方も3分の1おられる。

6. 団地環境の改善について、公共空間の改善、公的利便施設、生活利便施設などにいろいろな要望が寄せられている。